昭和26年 3月 3日（土曜日）第234號　磐城毎日新聞

種別郵便物認可（一）　第三種郵便物認可（昭和二十五年十二月二十六日第621號）　昭和二十二年十一月十日特別承認新聞紙

磐城毎日

社長　大和田與兵衛
發行所　福島縣平市15丁目12番地
株式會社　磐城毎日新聞社
編集兼印刷　遠藤孝倫
發行人　遠藤孝倫
電話（平）二一〇番
定價1ヶ月50円　1部2円
【夕刊・月曜休刊】

投稿歓迎

平市議會の豫算審議

總括質問を終り委員附記

平市に於ける二十六年度豫算案の審議を重要案件とする休會開けの二月定例議會は二日午前十時の定例より遲れ十時四十五分再會された、日程通り提出議案に對する總括質問に入り質問の通告順により鹽議員先頭を切り

市民稅の所得割の百分の十八の課稅率を輕減する方法なきや、街燈施設費の補助額の內容、會議所に對する二十萬圓の交付金問題、納稅奬勵金の內容に對し當局の說明並に所見を質し

阿部助役遂一これに說明並に答辨をして第二陣として國井議員登壇

健全財政の建前から切りつめた豫算の編成をされた市當局の苦心の跡は充分認められると前提して歲入の面で市稅の輕減の要を說き歲出の面で需用費特に敎育費警察消防費礦害對策費、山林保護育成費の增額或は計上の必要を說き當局の所見を質す

阿部助役の懇切な答辨によつてこれを諒承し第三陣と新妻議員立ち敎育家の立場から

二十六年度豫算編成に當り市當局が健全財政を維持するための苦心が現はれている點に對しては敬意を表するものであると前提し平市は飯野、神谷を合併した結果農業方面の施策に相當重點を置かれている樣であるが平市はあくまで商工都市並に敎育費中の需用費の增額を要望し當局に迫り更に消防費に言及し防火用水漕の設置の要を說き當局の所見を質す

これに對し阿部助役井上消防署長答辨、引續き小松、諸橋、石山、柴田各議員順序で質問應答を行い午後一時晝食の爲め休議し午後二時再會二十四年度の決算の報告等が行はれ審議は委員會に移る事となつた

品川黑田鑛の炭勞

無限スト突入の危機

日鑛傘下の品川黑田炭礦勞組は坑內三百八十三圓坑外二百九十二圓の要求の下に去月より斗爭中であつたが會社側は坑內二百九十圓坑外百九十圓の現行賃金を一歩も讓らないため去る二十三日第三回團体交涉の席上二十七日までの期限は回答で會社側に强硬に前要求を申入れた、會社側は當日前回答を繰返したため勞組側は二日を期して無期スト突入を宣言したが會社側はこのため斡施方を連盟に依賴した、連盟は日鑛常連と協議二日連盟、常連双方より代表者二名づゝが二日現地に出張現地斡施に乘りだしこのため二日よりのストは一應回避されたが危機は未だ脫していない二日の動きが山と見られる

電産の事務スト終る

解決の山は本月中旬

電産勞組平分會では昨年十月から中央においてかねてくか本月中旬が山と見られる交涉中であつた賃金ベース引上に關連し會社側えの壓力をかけるため東北管區支部の指令により去る二十七日より三日一月まで事務ストを行い定時退社定時出勤に集り二日は小雨だが就勞させよと役場え交涉したが出張拒否などを行つた、情勢の變化によつてはどう動くか本月中旬が山と見られる

內鄕の自由勞組

雨の失業保健を要求

內鄕町自由勞務者百五十名は一日二日と雨天のため作業が不能なので內鄕町役場に集り二日は小雨だが就勞させよと役場え交涉したが結未を得ないので同勞組書記長佐久間清治氏數名が平職安所え出向き三日雨の場合は四日も作業を休み規定により失業保險を支拂ふ事引續き作業をすることを申入佐藤職安所長は了解したので歸つた

小名濱の女殺し

酒の上で前科者が兇行

小名濱町古湊マーケット內喫茶店三好こと三瓶よし子さん方女中同町花畑志賀忠助さん二女よしえ(三三)さんは三月一日午前零時半頃化粧をして店を出たまゝ行方不明となつた、同日午前二時頃岬地內の街路上で下半身裸体全身ドロだらけで虫の息であるのを通行中の同町田人無職清原よし子さんが發見同町の草野病院え收容したが午後三時半死亡した、同女は全身に二十數ケ所の打撲傷を負い頭部を靴で蹴られた點が致命傷となつた、屍体は三日自宅に於て解剖する小名濱署では一日江名町中ノ作漁夫隆四郎(三〇)を容疑者として逮捕取調中であるが二日正午に至るも本人は犯行を否認しているが、なお一日午前二時頃同町田入八七漁業志賀定男(三三)さん外三名が暴風を心配して湊の方え行く途中隆が志賀よしえさんを足で蹴つているので裸でもあつたし「死んでしまふから止めろ」と止めたが「從妹だからかまわぬ」と言つてきかなかつた、他に通行人四名も現場を見たと言つており アリバイは確實で隆が犯人に間違はない隆及よしえさんは深い知合で從兄妹ではなく兩名とも泥醉しておりよしえさんは普通でも五合程の酒量があり更に淫亂の癖があつた隆は前科二犯で酒亂の傾向があつた

磐崎村の美人殺し

暴行の事實なく物盜が目的

昨報—磐崎村上湯長谷松本働きたくない故そのまゝ白エツ子さん殺の犯人佐藤秀鳥方面の山道で日向ボツコ雄は其の後引續き平地區署をしているうち午睡眠をさましてから歸宅しようと思ひ歸り道突然松本エツ子さんに會つた、すれ違ふ折手がふれ合つたのを足を踏んだといつて難癖をつけ喧嘩をうつて女をつきとばし山道の下方三十五米程の地點から無職で遊んでいたが窃盜罪のため同月末一年間の懲役の判決の結果秋田刑務所に服役二十五年六月出所其の後土工をして居り犯行當日の一月十三日は數日前より平競輪場の方で土工していた關係から平え行くといつて家を午前五時頃出て小菅染物店え染更えを依賴した、二十二日腕時計は平市四丁目荒時計店え千圓で賣却し上衣は隱して所持していた、本人は現在極度の興奮狀態にあり夜も睡眠せず考えこんでいる

敎組の支部大會

三日平第二小校で開く

敎員組合石城支部では三日午前九時より平第二小學校に於て第十二回石城支部大會を開き賃金ベースアップ選擧對策等について協議するが、なお同席上永年勤續功勞者として敎育界に貢獻した九十九名を表彰する最高の勤續年數者は山田村中學校渡邊直次郎先生で六十二才の老敎育者である

平勞働基準署で

勞災保健の說明

平勞基署では八日午前十時から平市內勞働會館で勞災保健の說明會を開く講師は本局の永崎安全生課長と加藤審査官

好間の土工さん

增水の爲流さる

好間村上好間大畑土工高橋義雄(三五)さんは一日午後五時頃上好間蛇岩淵河川改修工事現場で好間川の水が大雨のため二米程增水河岸に敷設した線路が流れるのを防ごうとして水のため行方不明となつた、消防團が出動捜査中なるも屍体は未だあがつていない

二日晩は北寄の風曇り一時しぐれですが次第に晴間が見えましよう

三日は北西の風一時强く曇り勝ちの天氣ですが次第に晴となりましよう

四日は大体晴れの見込です

海上は沖合は波立つて居りますが次第におさまつて來るでしよう

同時上映
大好評に付
五日迄續映
平
主演　上原謙　久慈あさみ
東寶　新
夜來香
文化

磐城名産
鰹節　鹽鰹
辛
皆樣の魚店
丸市屋
平市四丁目
電話二一三番

急募!!!
新聞擴張員　數名
平市內在住の方にして男女の別を問ひません
希望者は三日四日午前九時迄履歷書持參來社
（平地區署前）
磐城毎日新聞社
平市十五丁目　電一二一〇番

たつた10日間で100万圓
お待兼ね
第3回短期寶くじ
獎金　100万円・30万円
10万円・1万円　他
抽せん　3月16日
1枚30円で賣出中
どうぞお早く
日本勸業銀行
平支店

今日も元氣で
くすり

關内藥局
平四丁目　電話四〇番

郷土の物語り (二)

飯野悪田郎

弘元寺の和尚は顯藏主といつて評判の良くない坊主であつたが彼等にとつては誠に親切柔和な生佛としか考へられなかつた、長い旅で疲れ切つた浪人夫婦、乞食違ひの様な身なりの彼等が一夜の宿を願ひ出た時は、この爲に案内したそしてわざわざ、かゆ、をたいで彼等をもてなしたのである、彼等は本當に難生の思ひをしたそして心から和尚の御慈悲に感謝した

之に反して和尚は最初は困つた奴等を背負い込んだと考へたがふとこんな事に氣が付いた、彼等はきつと平家の落人に違いない、權之進の態度や言葉遣いがこの地方の浪人とは比べられない程上品でその上お喜代の美しさわいくらやつれていたとはいえ彼が瞳を見張るに充分であつたからである彼はその夜愛慾のとりこと

なつてまんじりともしなかつた事だろう、平家の落人を發見し又は之を捕えて當局につき出した者には莫大分分寺に置いて貰いたい事自分は義忠に仕えたいと思つて御倉入からやつて來たのだから手引をしてほしい事等已の素性を打ち明けて彼に懇願したのである、坊主は殊勝らしく一部始終を聞いてうなづきながら斯ういつた、自分は片寄義忠の信用篤く時々呼ばれては共に天下の形勢を論ずる事

續く

日曹礦の集團赤痢

平保健所で對策を要望

赤井村日曹炭礦の集團赤痢について今後の方策に萬全を期するが平保健所では現地の狀況をつぶさに調査した結果便所は甚だ不健全な狀態のまゝ放置されている現狀で衛生方面を考慮し徹底的な改善を要し、もしこのまゝ今の狀態を續けるならば夏ともなれば惡化の一途を辿り傳染病の溫床となるであらう早急に健全なるものに

して今後の方策に萬全を期する様日曹赤井炭礦當局者に要望された、更にまた下水は汚水等も流す事もある様でこのまゝでは便所と同様病源となる事は言ふをまたない、今度の赤痢發生でいち早く上水道は消毒をしたためこれによる災害はまぬかれたがこの点も時をきめて消毒を行ふ様に要望された

六、ハー平競輪栄えて伸びて街に景氣のヨードン ト華が唉く

平競輪節の作詞成る

大穴狙う作曲家を物色

平市朗 作詩

平競輪第二回開催も追いおい迫つて來ているので市の競輪室で準備に張り切つているがこの程平市朗なる歌人が「平競輪節」なるものをものにされ競輪室に持ち込まれたがこの競輪節は次の如く六節より成つている郷土色豊かなものである、競輪色ではこの歌詞に對し名作曲の篤志家を求めているが作曲者には謝禮としても競輪の大穴を内密で教へる手も考慮している模様である

平競輪節

一、ハー赤井嶽から平を見れば競輪ファンのヨーあの人の波

二、ハー平よいとこ競輪場で買つた車券がエーホーンニ空になる

三、ハー光るバンクに銀輪飛んでジヤンの鐘きくヨーあの心地よさ

四、ハー女流選手にウインク投げりやサイクルレースにヨー大穴あいた

五、ハー買つた車券でスリルに醉つて拂戻にヨーホンニ惠比須顏

石城内郷 貯蓄奬勵の運動

地方事務所達成に乘り出す

石城地方事務所では八日午前十時より各町村の貯蓄關係擔當者を招き昭和二十五年度の貯蓄目標額達成に關する打合會を行ふ、全國の目標額は三千四百億で第三四半期の貯蓄總額は八十七%で二十四年度の同じ第三四半期現在で百二十七%達成したのに比べれば遙かに成績が惡く、更に縣の二十五年度の割當目標三十六億に對して七十六%で全國平均よりも落ちる關係上特に奬勵運動に乘出したものである、石城郡の割當は五億で二十四年度の同じ第三四半期現在で百二十七%達成中である

外人の登錄事務

郡下の打合せ會

石城地方事務所では七日午前十時より地方事務所に於て各町村の庶務關係者を集め外人登錄に關する事務打合會を開く

東京の運搬船快進丸

小名濱で座礁救助作業中

一日午後二時頃小名濱港に停泊中の東京東邦海運會社運搬船快進丸(八四五トン)は海浪のためイカリの綱を切られて小名濱町高山海岸二名は激浪と暴風にさまた四百米沖に座礁した、小名濱海上保安部及同町海難救護會が消防團の應援により救助に當つているが同日夕刻まだ西田忠勝船長以下卅げられ脫出出來ないでいる

輸出向造花の講習會

六日泉公民舘で開く

石城郡民生事業助成連合會一では六日午前九時より泉村公民舘關係者及未亡人團体の代表者並希望者を集め輸出向造花の講習會を行ふ

達治氏の鼻

(一) 芳賀他郷

私が詩集「春の岬」「夜沈沈」代詩の韻律」の中で達治氏を訪れたのは、今夏のことであつた、折惡しく颱風の夜で、電車の轟音の合間に、風が潮鳴のやうな響をあげて吹き荒れていた午後七時頃であつた、來意を告げると不在であつたが程なく歸宅されると云ふので、氏の書齋に案内されて暫らく待つことにした、三十分も待つたと思はれる頃歸られたのであつたが、洋傘の柄に似た飾のまるで無いステツキを左手に掛けて書齋の扉口に立つた時は、まるでイブセン劇中の名優であつた、言はゞ氏の現代日本詩壇に確立された近代古典的と呼ばれる詩業そのまゝの姿勢であつた、詩壇に於ける氏の業績は萩原朔太郎氏の門を出て、正統派とか古典派乃至は日本抒情派とか評され、前記の詩集等に示された、水々しい抒情は西歐近代詩の洗禮を受けた骨法で、日本の風物を巧みに捕え、深い香氣をたゝへた美しいものである、

雪

太郎を眠らせ
太郎の屋根に雪ふりつむ
次郎を眠らせ
次郎の屋根に雪ふりつむ

三好達治

お正月早々騒がれた磐崎村の美人殺も漸く人の噂から遠ざかつて忘れられた頃當局必死の捜査が遂に實を結び佛の四十九日の供養を前にして犯人が檢擧された、犯行以來三日も經ての發見は當局の捜査に大きな暗影を投げかけ迷宮の噂も再度ならずであつた、春雨の降る三月一日朝平地區署佐藤署長さんは署長室の窓邊に無心に咲きほこる黄色な花をつけた福壽草の鉢を見つめながらこの福壽草が事件の起つた頃は未だ小さな芽であつたけれど捜査本部へ持つて行つていたらもうこんなに大きくなつた、日は經つて見れば早いけれどその一日一日がねじみと當時を述懐していた無心に咲きほこる花、雨はとめどなく降る、凡ての人の哀愁を含みつゝ

氣分が良くて安いと定評ある燕樂
暖かい明るい御座敷を！
御宴會、御商談、御會合、御利用下さい
御宴會、御會合は御予算でどんな御相談にも應じます、（御酒持込歡迎）
平文化裏通り
御料理仕出し
燕樂
電1、273
女中さん至急入用年齢三五、六歳迄

インキはメーゼンインキ
優良な各種万年筆は
萬年筆店
平市中央通り 電話三九九番

事務所住宅向賣物アリ
外ニ宅地讓リタシ
平市才槌小路踏切際（電三六一）
建築設計請負 色川材木店建築部

上映中
主演
ロバート スタリング
グロリア グレアム
クロード ジヤマンジユニア
RKO映畫
溪谷の銃聲
聚樂館

入學 祝ひの
卒業 記念撮影は
飯田寫眞舘へ
紺屋町聚樂館前

絶對 文化木炭 厚生大臣推賞
德用 製造販賣（卸＝小賣＝配達迅速）
各種燃料取扱 有限會社 共榮燃料工業所
平市正月町66（電話二六四）
小名濱出張所（登記所前）